

Ⅱ 自己評価計画

						石川県立いしかわ特別支援学校 No. 1			
	重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	授業実践力の向上	①	児童生徒の育てたい資質・能力の育成及び授業の目標達成に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善に取り組む。	研究研修課 全学部	昨年度の成果と課題を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を教員一人一人がより一層、充実させていく必要がある。	【成果指標】(教員) 単元や題材の設定、指導方法や支援等を改善・工夫しながら授業実践している。	担当する授業において、主体的・対話的で深い学びの視点から学習内容の見直しや指導方法の改善・工夫などに各期に2回以上、取り組んだ教員の割合が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員による自己評価 9月と1月
		②	生活単元学習において、各教科等の内容を基に、指導内容を設定した授業を行う。	教務課 全学部	生活単元学習を構成する各教科等の内容を基に、指導内容を見直す必要がある。	【努力指標】(教員) 各教科等の内容を基に、指導内容を設定した生活単元学習を実施している。	各教科等の内容を基に指導内容を設定し、実践した単元の数 が A 各期に3つ以上である。 B 各期に2つである。 C 各期で1つである。 D 各期で1つ未満である。 【達成目標 B以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	学年または学習グループでの教員の自己評価 9月と1月
		③	授業において、児童生徒の実態や発達段階に応じたICT機器の活用を推進する。	情報課 総務課 全学部	これまでもICT機器を活用した授業実践を推進してきたが、十分に活用している教員は少ない。全ての教員が授業において、積極的にICT機器を活用した指導及び支援の充実を図る必要がある。	【満足度指数】(保護者) 授業でICT機器を十分に活用していると感じる。	授業でICT機器が十分に活用されていると感じている保護者の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	保護者によるアンケート調査 9月と1月
2	キャリア教育の推進	①	児童生徒の発達段階に応じて、自らの役割や仕事等に責任をもち、主体的に最後まで取り組む力を育成する。	キャリア教育推進委員会 全学部	各種行事や係活動、作業学習等の活動をとおして、自らの役割に責任をもち最後まで取り組む力の育成が求められている。	【成果指標】(教員) 自分の役割や分担、作業学習等に責任をもって、主体的に活動している。	自分の役割や係活動、作業学習等に、主体的に活動する児童生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	キャリア教育推進委員会による教員へのアンケート調査 9月と1月
		②	本校のキャリア教育全体計画に示したキャリア発達の視点を取り入れた授業実践を行う。	キャリア教育推進委員会 全学部	本校のホームページに掲載したキャリア全体計画(案)を活用して、学校全体でキャリア教育を推進する必要がある。	【成果指標】(教員) 各学部のキャリア発達の視点を取り入れた授業実践を行う。	各学部のキャリア発達の視点を取り入れた授業を行っている教員の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	キャリア教育推進委員会による教員へのアンケート調査 9月と1月

	重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3	安心・安全な学校づくりと健康・体力の保持・増進	①	本校の児童生徒や保護者、来校者への教員の丁寧な対応と主体的な挨拶の励行を徹底する。	全学部	本校教員は、日頃から気持ちの良い挨拶をするように心がけているが、まだ十分とは言えない。全教員が丁寧な対応と主体的な挨拶の励行に取り組み、児童生徒や保護者、来校者が安心できるような学校づくりを目指す必要がある。	【成果指標】(教員) 児童生徒・保護者・来校者に対して教員が自ら気持ちの良い挨拶や丁寧な対応ができる。	児童生徒や保護者、来校者に対して自ら気持ちの良い挨拶や丁寧な対応をしている教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員による自己評価 9月と1月
		②	児童生徒一人一人の運動動作や姿勢等の課題を明らかにし、維持や改善を図る。	保健体育課 肢体小～高等部	児童生徒の実態把握に努め、歩行練習や姿勢保持、手指の巧緻性など個々の課題に応じた取り組みが日頃から必要である。	【成果指標】 運動動作や姿勢の課題に維持・改善がみられる。	運動動作等の維持・改善が見られた児童生徒の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	指導記録やチェック表による判定 9月と1月
		③	児童生徒一人一人の実態に応じた体力(持続力・一定時間運動を続ける力)を高める。	保健体育課 知的小～高等部	各学部において、体力づくりでのウォーキング、ランニングやダンス、体育での腹筋などのトレーニングに取り組んでいるが、今後も継続し、児童生徒の体力を高めていく必要がある。	【成果指標】 一定の時間、運動を続けることができるようになる。	運動を継続する時間や回数に伸びがみられた児童生徒の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	指導記録やチェック表による判定 9月と1月
		④	防災学習リストを活用した防災教育を推進し、児童生徒の防災への意識を高める。	学校安全課 総務課 全学部	児童生徒の実態に応じて、段階的に実施する防災学習リストを活用した防災教育の取り組みが十分ではない。また、保護者の防災意識が高まってきている。そのため、防災学習リストを活用した取り組みを推進し、周知する必要がある。	【満足度指標】(保護者) 学校での防災学習リストを活用した防災教育の取り組みがわかる。	防災学習リストを活用した防災教育の取り組みを知っていると答えた保護者の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	保護者によるアンケート調査 9月と1月
4	校務分掌等の改善と工夫	①	現状の校務分掌等の業務改善の平準化を一層進め、計画的かつ効率的な業務遂行に努める。	全学部	現状の校務分掌及び校内業務等の見直しや改善に更に取り組み、自らのタイムマネジメントを推進しながら教材研究の時間を確保する必要がある。	【満足度指標】(教員) 校務分掌等の平準化と効率化を推進し、計画的かつ効率的な業務遂行をする。	校務分掌等の業務内容の平準化と効率化に昨年度以上に取り組むことができたと感じている教員の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員による自己評価 9月と1月